

Ⅱ. 概要報告

報告 高野 史郎

1. 第1部 全体会

参加者 150名

(1) 千葉県三番瀬再生計画（基本計画案）概要紹介

千葉県三番瀬再生計画案（基本計画）、A4・35 ページの資料に基づき、主な項目について千葉県三番瀬再生推進室の神部氏が説明、紹介し、県の三番瀬再生計画への理解を深めました。

(2) テーマ別の論点・視点の整理

～4つのテーマについて、アドバイザーが論点のポイント・参考事例を紹介～

1) テーマ1. 東京湾全体の保全と再生

① 湾計画 東京国際大学講師、国際環境法、沿岸管理 鷲見 一夫

今までは、めちゃくちゃな開発をやってきました。東京湾周辺で、遊んでいる場所をなくしてしまおう、という考え方です。陸と海のなだらかな連続性がなくなってしまった。欠陥マンション、アスベスト問題など、行政の施策の間違ひもたくさんあった。我々にとって、挫折挫折の連続でもあった訳です。

今日は、若い人がたくさん来てくれているのが心強い限りです。これからは、陸と海の接点をいかにつなげて回復させるか、サンフランシスコにいかにかに学ぶかが重要な課題となることでしょう。

埋め立てには相当のゴミを使っている。何が出てくるかわからない所もある。原価で買い戻すとしても、その金の出どころはどうするか。船橋を発信地とするならば、ここへ来ればおいしいサカナが食べられますという話を、どう広げていくかが課題です。

県の説明書の31ページに、東京湾の再生につながる広域的な取組の記述がある。東京都には、羽田を埋めていく計画がある。三番瀬問題以前に、東京湾全体をどうするか考えないといけない。

30年前から、各省庁のタテ割りは依然として続いている。今日をきっかけに、三番瀬が東京湾を考える上でのイニシアティブをとって行きたい。

② 沿岸管理 東京海洋大学海洋科学部海洋政策文化学科助教授 川辺 みどり

沿岸域管理とは、生物多様性と沿岸生態系の生産性を維持しつつ、沿岸資源に依存する人間共同体の生活の質を改善するのが目的です。そのためには、1992年6月、地球サミットで採択された行動計画“アジェンダ21”などの精神を受けて、総合的・計画的に取り組んでいくことが必要でしょう。

東京湾の埋め立ては、江戸時代から行われていましたが、東京湾が大きくその様相を変えたのは、戦後の高度経済成長期でした。

埋め立て面積は、1960年ごろから急激に増加し、70～74年にピークを迎えました。明治から1990年までに埋め立てられた全面積は、100年前の21%に相当し、内湾海岸線の95%が人工海岸になってしまいました。今後の湾管理は誰が主体なのか？ 沿岸漁業・漁民をどう位置付けるのか？ もう一度、東京湾から提案する市民活動を展開していきたいと思っています。

③ ラムサール条約 WWFジャパン自然保護室主任 花輪 伸一

ラムサール条約は、次第に考え方が発展し、当初の水鳥の条約から湿地に関する生物多様性を資源として守っていく、住民参加で守っていく方向へと変わってきました。

水鳥が観光資源ともなり、それを見るために人が集り、そこにお金を落としていくというように考えられるようになってきました。

ラムサールに登録するメリットも、地域の人たちにだんだん判ってもらえるようになってきています。今日のように、こうして人が集ってくることが、ラムサールを盛り上げる大切な要素となります。少し前までは、ラムサールに登録してどんなメリットがあるのかという意見が多かったのです。

日本のラムサール登録地は、現在33か所です。干潟と浅海域を保全するための原則は、現存する干潟を大切にす、劣化した干潟の回復を図る、失われた干潟を再生する。これらを住民参加で、利害関係者が集って議論することから始めたいと思います。

2) テーマ2. 海を活かしたまちづくり

① まちづくり 日本大学理学部海洋建築工学科教授 近藤健雄

4年前に海を活かしたまちづくりが提案されました。大野さんは30年前から声高らかにこれを発言していました。どうにかしたいではなく、再生計画を進めるためには誰がその資金を出すか、誰かがお金を作るプランを出さないと話が進展しない。豊かにするために何をするか、どんな手を打ったらいいのかが必要です。

川がどんどん汚れ、海にも負担がかかっている。4割はよくなったというが、6割はよくしたい。今さらどうしようかの議論だけではなく、具体的に考えないとフラストレーションがたまってしまう。

ディズニーランドには2000万人が来ている。日本全国から人が集ってくるが、すぐ隣の三番瀬への関心に結びついていない。

東京湾・三番瀬を全国レベルのブランドにしよう。船橋は、どんなまちづくりをしていますか？ これを英語で、国際的に発言していかないといけないと思っています。

② 土地利用 NPO法人千葉県不動産コンサルティング協会 三橋 福雄

海が汚れてしまったのは、海のせいではなく、陸のせいです。私は以前は建築業にたずさわってしまっていて、開発に手を貸していた。その罪滅ぼしのような心境です。

本来土地は所有するものではなく、利用するものです。戦後60年間、企業主体で土地利用が進められてきた。それが現実の、海辺の細長いマンションの林立となっているわけです。

土地の値段は130倍、勤労者所得は30倍、消費者物価は6倍。土地の値段はひとところよりは落ち着いたとはいえ、まだまだ異常です。インフラ整備を経済成長至上主義と結びつけたことに、欠陥マンションの要因があったと思っています。

ところで、国交省の提案した、富士見百景ってご存知ですか？ 2月23日がフジサンのゴロ合わせ。景観法はまだ千葉県・船橋では何もやっていませんが、こうした考えを支えていくのが、発言し行動する市民参加だと思っています。

3) テーマ3. 東京湾の地域ネットワーク

① 藻場再生 神奈川県水産技術センター 工藤 孝浩

ずっと東京湾に係ってきました。横浜の人工干潟・海の公園は、月に5万人が来てアサリを採って行っちゃうが、少しも減りません。アサリは部屋のホコリと同じで、隅に集まるらしい。横浜に集ってきます。千葉県や東京都方面から、アサリの幼生が流されてきて着底しているようです。

アマモも市民が勝手に始めた。予算がつけられない中で2年間続けた後、2003年から水産庁で予算がつくようになりました。

三番瀬はかつて東京湾最大のイシガレイのふるさとでした。横浜ではカレイといえばイシガレイを意味しています。いま、神奈川で捕れるイシガレイの7割は三番瀬生まれと推定されています。三番瀬はそのまま横浜にもつながっているわけです。

東京湾関連の自治体の広域連携による環境再生の、壮大な構想が展開されつつあります。

② 里海づくり NPO 法人盤州里海の会 金萬 智男

本業は漁師で、海苔を始めて26年になります。海で遊びながらバイトをして、東京湾再生・まちづくりを考えてきました。親が漁業権を持っていたんです。頭が悪かったので、親の仕事を継ぐようになりましたが、娘がこれを引き継いでいく筈はありません。どうしたらいい。漁業権で何なんだ、とずっと考えています。

サラリーマンでは、漁業権は持てないらしい。でも、週末漁師というのがあってもいいのではないのでしょうか。

かつて東京湾には、2万人以上の漁師がいました。多くの生物が消えてしまった今、海の役割は何でしょうか？ 答えは簡単、ネットワークのある海に戻せばいい。生き物が住める環境に戻す努力をすればいい。

私たちの里海の会では、海苔作り体験や干潟探検を実施してきました。東京湾再生も、多くの市民が参加することで現実となることを確信しています。

4) テーマ 4. 海と陸の連続性と生態系、水際線

① 海洋環境 国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 古川 恵太

従来は、このような連続性・水際線というようなテーマは考えられないことでした。それは基本になっている法律が違っているからです。

技術屋にとっての基準は、例えば波の強さからの計算だけでなく、性能から考える、デザインから考える。波の何%を防げばいいかと考えるようなれば、デザインの可能性も広がってきます。1年365日に防災の機能が必要なのではない。荒れる5日間と、その他の360日とをあわせて考えれば、市民の活用も開けてきます。上から降りてきたプランではなくて、自分たちのものという実感が必要だし、今まではお互いのコミュニケーション不足があったようです。

いま、どうなっているのか、これから何が必要なのか。現状把握と目標設定。どうすれば求めるものが得られるのかの評価基準。考えていく上での参考事例をいくつか紹介していきたいと思っています。

② 自然工法 日本粗朶工法協会会長、新潟県粗朶業協同組合 若月 学

粗朶はかつて暖を取るために使っていた“柴”を活用するものです。粘性のある樹木を10年ぐらいの周期で伐採し、組み込んで使います。ここにあるのが10分の1の模型で、石を詰め込んで沈めます。水上で作ってから、丸太を使って大きな船で移動できるので、いろいろな場所で活用されるようになりました。多孔質な材料なので、魚類、エビ、カニなどの格好な生息地となります。

アサザ・プロジェクトの飯島さんは、粗朶によって霞ヶ浦の上流と下流を結び付けましたが、この粗朶が、海と陸を結びつける役割を果たしてくれそうです。

水際に置けば、波の侵食から砂の移動を防止できる。草や木の根がこの粗朶に絡まって、しっかりと固定する役割も果たしてくれます。

平成16年には、伝統工法の継承・技術開発指導の功績により、日本水大賞の奨励賞を頂きました。